



A 3区 竪穴建物S200 (451・452・456), S1 (469~471), S5 (474・475)



A 3区 竪穴建物S379 (461・463・465・466), S312 (477・480・481・482)



A 3区 土坑S319 (518・519), 小穴S9 (525・526・528・529), 溝S3 (492～500・510)





A 5区 竪穴建物S279 (570), 溝S145 (578・579・582・585~589・590・604・615)





A 5区 溝S145 (610・625・626), 土坑S359 (630・632・634・635・637・639)



A 5 区 土坑S359 (638), 小穴S118 (641)、A 7 区 溝S378 (647), S367 (654・649~651)



A 7 区 土坑 S397 (658・660), S409 (661)、A 8 区 河道 S9 上层粘土层 (691), 中层砂层 (692~695・698)



697



699



702



710



709



707



717



714



716



720



712

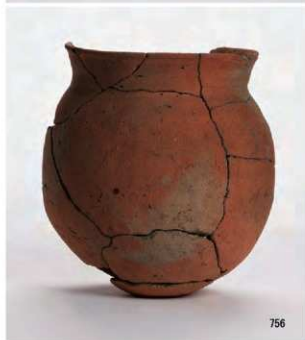


729

A 8区 河道S9 中層砂層 (697・699・702・707・709・710・712・714・717・716・720), 下層有機質層0~20cm (729)



A 8区 河道S9 下層有機質層0~20cm



A 8区 河道S9 下層有機質層0~20cm



A 8区 河道S9 下層有機質層0~20cm



A 8 区 河道S9 下層有機質層0~20cm



A 8区 河道S9 下層有機質層0~20cm



A 8 区 河道S9 下層有機質層20～40 cm (847・849～851), 40～60 cm (857～860)



861



862



866



867



870



872



873



894



896



898

A 8区 河道S9 下層有機質層40~60cm (861・862), 60~80cm (866・867・870), 120~140cm (872・873)、
B区 河道S40 (894・896・898)



B区 河道S40 (895・907・910~912), 溝S46 (878・881)





B区 土坑S36 (913·914), 河道S47 (926~928)



C区 井戸S52 (931), 溝S199 (939・943), S226 (949), 河道S270 (957・958・960・961・962)



C区 河道S270 (963~968), S271 (971・973・975・976・987・989・990)



鋤木製品 (W76), 曲柄鋤 (W24・W166・W46), 鋤曲柄 (W134), 斧柄 (W171)



横槌 (W81・W135), 竖杵 (W82・W83・W189)



杵型田下駄 (W2・W3・W138・W169), タモ杵 (W186), アカスクイ (W17)



錘 (W25・W66・W84・W85・W136・W137・W168), 軸受台 (W88・W181)



棒 (W23・W86), 杵 (W4), 布巻具 (W143), 曲物底板 (W6・W49)



W77



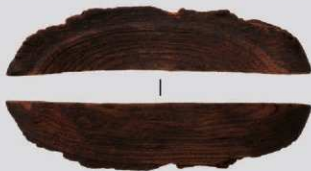
W91



W92



W50



W78



W89

曲物底板 (W77・W91・W92), 容器蓋 (W50・W78), 皿 (W89)



W90



W139

槽 (W90・W139)



W140

槽 (W140)



漆器 (W196 ~ W199), 土器 (992・993)



下駄 (W51・W52・W53・W68・W147・W103)



下駄 (W102), 櫛 (W26), 丸木弓 (W110・W170・W188), 壺鏡 (W141), 扇骨 (W57)



ささら (W105), 鳥形 (W67), 舟形 (W107), 刀形 (W58・W185), 弓形 (W106), 斎串 (W40・W33), 串 (W27・W34)



細工物 (W111), 柄 (W71・W72・W62), ヘラ (W73・W112), 滑車 (W183), 作業台 (W12)



蹴放 (W142), 柱材 (W22), 板材 (W13・W42), 角材 (W14・W64・W116・W156・W184), 残材 (W29)



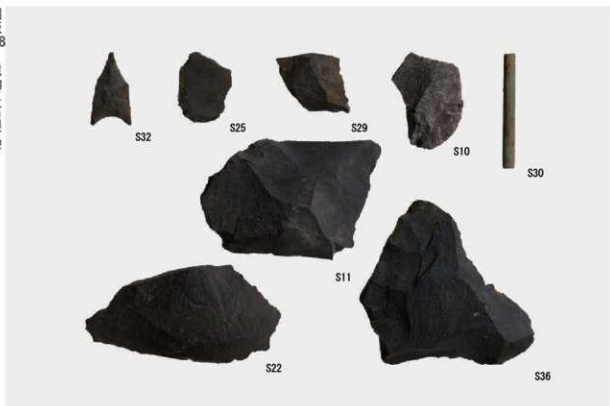
残材 (W19・W117・W187), 用途不明 (W65・W130・W125・W129・W126・W128・W190)



石鍋



磨製石斧（S17・S38），棒状石製品（S14）



石鏃 (S32), 剥片 (S10・S11・S22・S25・S29・S36), 管玉 (S30)



磨石・敲石 (S3・S13・S18・S20・S23), 砥石 (S31)



磨石・敲石 (S12・S33・S34・S42), 砥石 (S9・S43)



砥石



砥石



砥石



鎌 (M3・M4・M12), 釘 (M9), 鉸具 (M2), モモ核 (下段左), ウシ脛骨 (下段右)

報告書抄録

ふりがな	ふくみついせき (だいにじゅうさんじ)							
書名	福満遺跡 (第23次)							
副書名	プロシードアリーナHIKONE (彦根市スポーツ・文化交流センター) 建設工事に伴う発掘調査報告書							
シリーズ名	彦根市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第91集							
編著者名	中川治美・阿刀弘史							
編集機関	彦根市			公益財団法人滋賀県文化財保護協会				
所在地	滋賀県彦根市元町4番2号			滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2				
発行年月日	令和6年(2024年)3月							
ふりがな	ふりがな	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ふくみついせき 福満遺跡	滋賀県 彦根市 西今町・ 小泉町	252026	202-015	35度 14分 50秒	136度 14分 41秒	20170919) 20180329	10.550㎡	プロシードアリーナ HIKONE (彦根市 スポーツ・文化交流 センター) 建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
福満遺跡	—	縄文時代晩期	河道	縄文土器				
	集落跡	弥生時代後期	竪穴建物	弥生土器				
	集落跡	古墳時代前期	竪穴建物	土師器				
	集落跡	古墳時代中期	竪穴建物	土師器	軟質朝鮮半島系土器			
	集落跡	古墳時代後期	竪穴建物・溝	土師器・須恵器				
	集落跡	飛鳥時代～ 平安時代前期	竪穴建物・ 掘立柱建物・ 溝	土師器・須恵器・ 灰軸陶器				
	集落跡・ 耕地	平安時代中期～ 鎌倉時代	井戸・溝・ 河道	土師器・山茶碗	墨書土器			
	—	縄文時代中期～ 鎌倉時代	河道	縄文土器・弥生土器・ 土師器・須恵器・灰軸 陶器・緑釉陶器・青 磁・白磁・青白磁・陶器 /石製品/金属製品/木 製品/獸骨/種実類等	軟質朝鮮半島系土器/ 墨書土器/鉸具/壺鏡/ 多様な木製品			
要約	<p>福満遺跡は犬上川下流域の氾濫原から自然堤防上にかけて立地しており、同河川右岸に近接し、古代東山道にもほど近く、水陸の拠点として優位な位置にある。こうした立地を十分に活用しながら、集落や物資集約・管理施設を展開させていった。</p> <p>縄文時代晩期には近隣に集落の存在が示唆され、弥生時代後期には方形竪穴建物を主体とする集落が出現し、古墳時代前期・中期を通して集落が営まれ、古墳時代後期には集落の拡大が認められる。飛鳥時代～平安時代前期には掘立柱建物を主体とする公的性格を帯びた施設が広範に展開され、その後平安時代中期以降には耕地化が進む様子が確認された。</p> <p>今回の調査によって、生活の場が時代とともに変容し、公的性格を帯びた施設へと変換し、その後耕地化が進む様子が捉えられた。</p>							

令和6年(2024年)3月

彦根市埋蔵文化財調査報告書第91集

福満遺跡 (第23次)

プロシードアリーナ彦根 (彦根市スポーツ・文化交流センター) 建設工事に伴う発掘調査報告書

編集・発行 彦根市
彦根市元町4番2号
電話 0749-22-1411
FAX 0749-22-1398

公益財団法人 滋賀県文化財保護協会
大津市瀬田南大萱町1732番2号
電話 077-548-9780
FAX 077-543-1525

印刷・製本 宮川印刷株式会社